

エコでスローライフ できるまちに

杏林大学参与(広報・企画調査室長)

島津敏雄さん

Toshio Shimazu



経歴

広島県三次市出身。慶應義塾大学法学部卒業。1976年、NHK(日本放送協会)入局。報道局社会部、特報部で災害や事件・事故の取材、緊急報道、報道・ドキュメンタリー番組「NHKスペシャル」などの制作を担当、放送総局エグゼクティブ・プロデューサー、静岡放送局長、株式会社NHKグローバルメディアサービス専務取締役などを歴任。2016年10月から杏林大学参与(広報・企画調査室長)。66歳。NHK静岡放送局には1993年と2006年からの2度、通算5年間勤務。夫人は静岡市葵区出身。
<http://www.kyorin-u.ac.jp>

救命救急医療で定評

昨年10月、現職に就いた。杏林大学は医学部、外国語学部など4学部から成る総合大学だ。「医系としては知られていますが、さらに総合大学として皆さまに名が浸透するよう奮闘しています」。

看板の医学部は今年で発足47年。救命救急の分野は特に評価が高く、とりわけ重症な患者を受け入れる高度救命救急センターはわが国の救命医療の最重要拠点

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

の二つ。「救命救急を杏林で学びたいと他大学の研修医が毎年多く来られます。大学名の由来などから中国を中心に海外からの医師の視察も多いですね」。

マンツーマンの語学指導などに代表される少人数教育に加え、バランスの取れた人間形成を目指す一環として学部連携の強化を掲げ、「他学部履修制度」、「合同科目講座」を設けている。このうち、学部の壁を取り払った形の「合同科目講座」は51あり、例えば医学部を含む4学部の合同科目「地域

と大学」をテーマにした講座は1年生の必修科目になっている。

英国出身の副学長、米国出身の外国語学部長などグローバル化も推進し、日本銀行や財務省、大手企業など外部からも人材を招へいして、実践的な教育に力を入れている。

2度の静岡勤務

転勤で静岡勤務を2度経験。「静岡市は第二の故郷です」。今でも経済人など当時の人たちとの交流が続く。「静岡市はいろんな意味で恵まれ、ゆとりがあって、住みやすいのに『顔』がない。浜松が楽器とかバイクのまちといわれているのに比べ、何となく埋没している感じを受けます」と指摘。

「これからは在宅勤務のようなライフスタイルも増えていくと思います。東京に近いというメリットを生かしつつ、時代に合った、エコでスローライフの実現できるまちづくりを前面に出せるといいなと思いますね」。最初に静岡市へ赴任した時、自転車が多いのに驚いたそうで、「例えば、エコで、自転車マナー日本一のモデル都市とかですな」。

島津さんは言う。「転勤族でさまざまな方と接しましたが、やっぱりゆとりがあるということはすごいメリットで大切だと思われ、新しいことを打ち出して無理に肩力を入れることはないのかなって気がしますね」。

(文・写真:長田義明)